旭ヶ丘キリストの教会
主日礼拝順序
２０２２年６月１２日

司会：千田俊昭
奏楽：千田祥子

黙　　祷		一　同
讃　　美※	聖歌６０４「雨を降り注ぎ」	一　同
主の祈り※	（聖歌表扉または讃美歌564番をご覧ください）	
讃　　美		一　同
教会学校	絵本「まよえる小羊」	牧　師
讃　　美	聖歌642「望みも消えゆくまでに」	一　同
聖書朗読	Ⅰテサロニケ4:1-7	
奨　　励	第一テサロニケ書の福音(第6回)	牧　師
主　　題	**「聖められた者として」**	
讃　　美	聖歌５７７「聖なる者と」	一　同
献　　金	献金と感謝の祈り	
聖　　餐		
頌　　栄※	聖歌376「父、御子、御霊の」	一　同
祝　　祷※		牧　師
来週の箇所	**ヨブ記第 20,21 章**	

※印のところでは御起立下さい。

☆　はじめて集会においでの皆様。心から喜び、感謝してお迎え申しあげます。しかし、初めての方に無理な勧誘をするようなことは、一切いたしません。むしろ、そっとしておきたいと思うわけです。その態度を冷淡や不親切と誤解なさらないで下さい。
☆　私たちは何派にも属さないクリスチャン個人の自由な交わりの教会です。聖書を学び、キリストに信頼し、キリストが与えてくださる神の義を何より大事にし、信じる者同志が兄弟姉妹として受け入れ合う群れです。
☆　献金は神への感謝として、各自が自由意志で行うものです（２ｺﾘﾝﾄ9:7）。入り口に献金箱がありますので、どうぞご利用下さい。
☆　キリスト教について、あるいはどんな質問でも、いつでも遠慮なく牧師にご相談下さい。
☆　第二礼拝後、軽食を用意してありますので、お時間のある方はどなたでも、ご自由にお召し上がり下さい。
☆　二階に教会図書がありますので、どうぞご利用下さい。

旭ヶ丘キリストの教会　ニュース

《今週の歩み》
６/12(日)聖日礼拝
/13(月)
/14(火)
/15(水)10-12:OBSｸﾗｽ
/16(木)10:00聖研
/17(金)
/18(土)13-16子供ｵｰﾌﾟﾝﾊｳｽ

《祈りの課題》
①コロナ禍の速やかな終息のために
②礼拝に来れなかった人々のために
③教会学校の子供たちが救われますように

良書ハイライト

「ギュッツラフ訳聖書に思う」
福岡伸一（「福音と世界」2018年5月号より）

昨年、私が勤務する青山学院で、歴史に残る様々な聖書を陳列した「聖書展」が開催された。そこに「ギュッツラフ訳ヨハネ福音書」が出展されていた。これは徳川幕府がまだ鎖国を続ける江戸時代後期の1830年代、マカオにいたドイツ人宣教師カール・ギュッツラフが訳したもので、最古の日本語聖書とされる。

黄ばんだ紙に黒いカタカナ活字で端正な文字が並んでいた。有名な冒頭の一句「初めに言があった」は、ギュッツラフ訳ではこんなふうに訳されている。「**ハジマリニ　カシコイモノ　ゴザル**」

1803年、プロイセン領ポメラニア(現在のポーランド)に生まれたギュッツラフは、東南アジアでの宣教に従事した後、マカオに滞在していた。このとき彼はたまたま日本の漂流漁民三名を保護した。江戸時代の有名な漂流者ジョン万次郎以前のことだった。ギュッツラフは尾張国出身の彼らの助けを借りて、聖書の日本語訳に取り組んだのである。ゴザル、といったちょっとユーモラスな表現は漁民達の言葉の影響だろう。

ガラス越しにこの聖書を見つめていて私の心に、ある疑問が浮かんだ。今では「言葉」と訳されている箇所が、どうして「カシコイモノ」なのか？宗教学の先生が教えてくれた。ギリシャ語の原典ではここは「ロゴス」です、と。そうなのだ。初めにあったのはロゴスなのだ。ロゴスとは言葉そして論理。名づける力としてのロゴス。人の知恵の源泉としてのロゴス。そして神の言葉としてのロゴス。それがカシコイモノなのである。なんとまっすぐな翻訳なのだろう。

私もまた科学者としてロゴスを信じ、ロゴスの力で自然を説明しようとしてきた。一方で、生命と自然(哲学用語でピュシス)は本来、連続し、絶えず移ろいゆくもの、つまり動的平衡として存在している。はたして、ピュシスはロゴスによって説明し尽くせるのだろうか。道を求める旅は、遥かに遠い。

ギュッツラフは生きている間に、ついぞこの聖書を日本に届けることができなかった。漂流民たちの帰国の夢も叶わなかった。

福岡伸一（青山学院大学教授・米国ﾛｯｸﾌｪﾗｰ大学客員教授［生物学］）